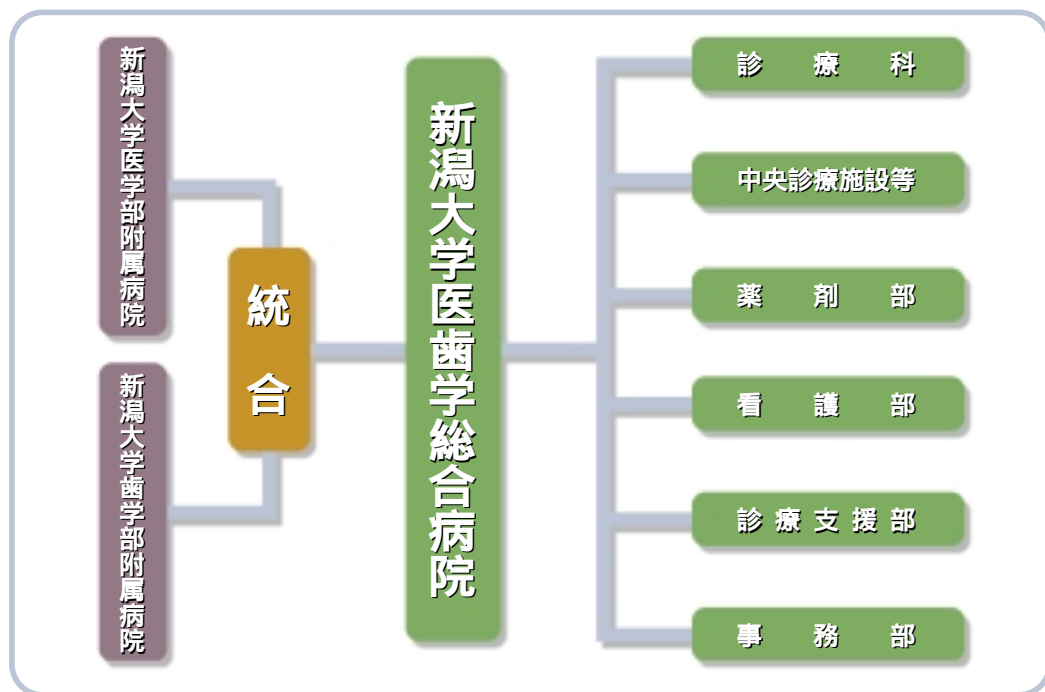


新潟大学医歯学総合病院
 生命と個人の尊厳を重んじ、
 質の高い医療を提供するとともに、
 人間性豊かな医療人を育成する。



医学部と歯学部の附属病院が統合

平成15年の10月1日から医学部の附属病院と歯学部の附属病院が統合しまして、新潟大学医歯学総合病院という名称になりました。

統合に伴い、病院ではパンフレットをつくりました。この中で医歯学総合病院の理念というのがありまして、「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する」というものです。

ただし、実際は医学部附属病院と歯学部附属病院は建物がまだ別々ですので、組織的には統合されていますが、実質的にはまだまだというところがあります。現在は、第2期の病棟（東館）の建設が始まっており、基礎工事が行われていますが、その病棟が完成し、使用できるのは平成18年の1月からの予定です。その頃には、統合という実質があらわれてくるのではないかと

思っています。

あとは他の中央診療棟、すなわち薬剤部とか臨床検査部など、いろいろありますが、各中央診療部も将来的には、実質的にも統合しようとしています。第3期、4期の工事計画がすべて終了する平成24年頃には実質的に完全な統合ができるかと思っています。

独立法人化後の大学病院のあり方

国立大学病院ですから全人的な医療を行うとともに、高度先進医療もやらなければいけないと考えています。それらを通して新潟県、あるいは地域の医療レベルも上げていかなければなりません。さらには、全国レベル、あるいは国際的なレベルまで上げて、維持していく必要もあります。環日本海という考え方もありますが、これは以前の医学部附属病院時代の目標であり、新しい目標には入っていないのですが、当然それもやらなければいけません。



畠山勝義 副病院長

現在、ロシア・韓国・中国など、多くの留学生が医学部、あるいは医学部を介して附属病院で研修や臨床研究をしています。ロシアとの医学交流では、ドクターや学生やコメディカルの方が内視鏡関係の研修にきています。そのような交流や研修を通じて、環日本海での国際交流的な関係を保っているのが現状です。

高度先進医療という点では、具体的には、生命科学医療センターが立ち上がりました。平成15年の4月1日からこの生命科学医療センターと地域保健医療推進部の2つが新しくできました。

この生命科学医療センターには3つの部門がありまして、1つは治験センターといって、いろんな薬の治験をする部門です。2つ目は再生医療、移植医療を行う部門、それから輸血部門と3つに分かれています。

地域医療保健推進部は、新潟県の地域医療の向上をはかることを目的としております。あるいは、地域のいろんな関連病院との連携を進めていきます。また、地域住民のための医学の啓発活動を行ったり、地域住民の催し物があれば積極的に協力して、医療相談などでも貢献したいということできました。

臨床中心の医学教育

最近、臨床実習を重要視したカリキュラムに変わってきています。特に卒業する年度になると学外実習を行います。大学は特殊な病院といいますが、入院患者さんが特殊な人が多いのです。大きな病気や合併症をたくさん持っている方の手術や、非常に特殊な病気、普通の病院ではなかなか手に負えないような患者さんの治療に当たることが多く、この点では偏っているといえます。

そこで、日常普遍的に遭遇するような疾

患を経験してもらうために、学外実習というのを6年生でやってもらっています。市民病院やがんセンター、済生会病院などに行き、臨床実習をしてもらっています。それも広く知識が得られるようにとの配慮からです。

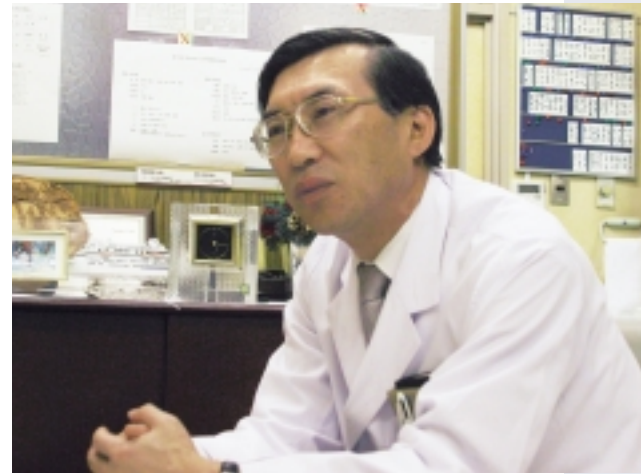
もう1つ臨床で大きく変わるのは、平成16年の4月から卒業後の臨床研修が2年間義務化されることです。卒業した人は必ずその2年間の臨床研修を修了しないとそれぞれの専門の分野に進めないこととなりますので、それに見合ったような病院内での研修が必要になってきます。

学生に対してのメッセージとしては、あまり1つのものを詳しく覚える必要はないと思います。浅くてもいいですから、できるだけ広い知識を身につけて、いわゆる全人的な医療ができるように努めて、プライマリーケアから救急までできるような知識を身につけてもらいたいと思っています。

この仕事をやっていて良かったという喜びは、私は外科医ですから、手術という治療法で患者さんが元気になって退院して、普通の生活をしているのを見る時で、非常にやりがいのある仕事だと思っています。

今、最も希望していることは、やはり歯学総合病院になったからには、できるだけ早く実質的にも医科歯科の総合病院として活動したいということです。そのためには、建物が一緒にならないとできないわけです。それが全部できるまでには、どうしても時間がかかってしまいます。その辺が一番気がかりです。建物ができると本当の意味での統合が完成すると思います。

(聞き手：川瀬知之、寺田員人)



「手術をした患者さんが、元気になって普通の生活をしているのを見る時が喜びですね」